

あらかじめわかっていた事

わたしは眠つていたのかもしません。
気がつくとそこは真暗で
遙か高いところにあるいは月があるだけです。
なんだかいつもより月が青いような
いつもの月とは違うような気がします。
満月にしては辺りが暗すぎます。
暗すぎてどれだけ広いのかもわかりません。
本当の闇です。
こほんと咳をしたところ
音が響くように聴こえたので
どうやらわたしは
深い穴の底にいるようなのでした。
あと声を出してみると
やつぱり声は響きます。
それでは月と見えたものは月などではなく
穴の口の部分だつたのです。
そう思つて見れば
やはり月ではありません。
誰かが通り過ぎてゆくのか
ときおり影が横切れます。
わたしはその場に座りこみ
助けを求めるわけでもなく
ポケットの中にあつた煙草に火を付けます。
カチンとライターの閉まる音が穴の中響き
わたしが穴の口を見上げ続けます。
わたくしがどこに迷い込んだのか
自分でわかっているような気がするのです。